

愛知県では、「女性が輝き、女性が元気に働き続けられるあいち」を目指し、様々な「あいち女性の活躍促進プロジェクト事業」を展開しています。

### あいち女性の活躍促進会議

女性活躍のカギを握る経営トップの意識改革を図るため、経済団体・労働団体・企業の代表者等をメンバーとする会議を開催しています。



### 女性管理職養成セミナー

女性中堅社員の方々を対象に、管理職に求められるビジネスセンスや実践力を身につけていただくためのセミナーを開催しています。



### 働く女性の交流ビュッフェ

働く女性同士がネットワークを築き、更なるステップアップに向けた意欲を高めていただくための交流会（ミニセミナー付き）を開催しています。



### 男性管理職向けワークショップ

効率的な働き方や女性社員の育成方法など男性管理職のマネジメント能力向上を支援するワークショップを開催しています。



### リケジョの進路!きっかけシンポジウム

女子中高生・保護者・教員などを対象に、理系分野への興味や関心を喚起するシンポジウムを開催しています。



### あいち女性輝きカンパニー

女性の活躍に積極的に取り組む企業を「あいち女性輝きカンパニー」として、県が認証します。  
また、女性の活躍に向けて新たに取り組んだ中小企業に奨励金を支給しています。



あいち女性輝きカンパニー  
ロゴマーク  
※写真は平成26年度または27年度のものです。

# あいち女性の活躍促進サミット 2015

～企業経営者へのメッセージ～

女性が輝き、女性が最も働きやすいあいちを目指して

開 催 報 告

日時 平成27年10月26日(月) 午後2時～午後5時20分

主催 愛知県

共催 一般社団法人中部経済連合会・愛知県経営者協会・  
愛知県商工会議所連合会・愛知県中小企業団体中央会・  
ACCJ(在日米国商工会議所)中部支部・  
愛知労働局・中部経済産業局

### 愛知県県民生活部男女共同参画推進課

〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号  
(電話052-954-6657 / Eメール danjo@pref.aichi.lg.jp)

あいち女性の活躍促進応援サイト  検索 <http://www.pref.aichi.jp/danjo/jokatsu/>

あいち女性の  
活躍促進応援サイト





## 女性が輝き、女性が最も働きやすいあいちを目指して

平成27年10月26日(月)、ウェスティンナゴヤキャッスルにおいて「あいち女性の活躍促進サミット2015」を開催し、愛知県内の企業経営者や企業関係者など約620名の皆様に参加いただきました。

このサミットは「あいち女性の活躍促進プロジェクト(裏面参照)」の一環として開催したもので、「経済活動における女性の活躍の重要性」をテーマに議論していただきました。



## 開会あいさつ

### 愛知県知事 大村 秀章

今年8月には、国会で「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」が成立するなど、女性の活躍は、国全体で取り組む重要な課題です。一方、愛知県では、年齢別の女性の就業率をグラフで表した場合、25歳から40歳前半までの子育て世代が谷となる、いわゆるM字カーブの谷が全国平均よりも深くなっています。また、役員や管理職等の指導的地位にある女性の割合についても全国平均を下回っており、女性の活躍に向けて取り組むべき課題は山積しているのが現状です。愛知県は日本一のモノづくり王国として、我が国の産業・経済を牽引している大きな役割を担っていますが、女性が活躍し輝くことで、更にこの地域は大きく発展し、日本の発展に繋がっていくものと考えております。「愛知が変われば日本が変わる。愛知が動けば日本が動く」という意気込みで、女性の活躍促進に向けた取組を進めていきたいと考えています。企業の皆様のお力添えをいただきながら、皆様と一緒に「女性が輝き、女性がもっとも働きやすい愛知」の実現を目指していきます。



内田 俊宏氏



小池 利和氏



小池 利和氏



小池 利和氏



小池 利和氏

### 愛知県経営者協会副会長(小島プレス工業株式会社相談役) 佐伯 外司

「あいち女性の活躍促進会議」の構成メンバーを代表して、一言ご挨拶を申し上げたいと思います。愛知県は製造業の比率が高く、長い間、女性活躍の後進県と言われてまいりました。しかしながら、県を挙げて、女性の活躍に対して注力しており、特にこの数年の活動は大変目覚ましいものがあります。また、法律の整備などを追い風に、今後は女性に限らず、多様な働き方、あるいは長時間労働を前提としない働き方が広がっていくものと考えております。私どもも周知活動を進めて参りますが、県の方々にも、特に法律で義務付けのない中小企業へさらなる情報提供などを行っていただき、官民合わせて、愛知県の女性の活躍を更に進めていきたいと考えております。



## 基調講演 1 「経営戦略としてのダイバーシティマネジメント」

### NPO法人J-Win 理事長 内永 ゆか子

IT技術などの進歩により地域・時間・国境などの境界が薄れ、世界はフラット化し、ビジネス環境は急速に変化し続けています。競争に勝ち残っていくには、既存のビジネスモデルの踏襲ではなく、新しいモデルを創っていく必要があります。過去の成功体験に基づいて考えるのではなく、違った価値観やアイデアで新しいことに挑戦することが求められます。そこで有効なのが多様な価値観を持つ人材の活用であり、日本においてはその第一歩が女性活用です。つまり、ダイバーシティマネジメントこそが、変化に対応していくためのイノベーション(革新)の原動力であり、グローバル時代の経営戦略そのものなのです。企業における女性活躍推進には、トップのコミットメントとリーダーシップが非常に重要です。女性活躍推進を経営戦略としてとらえ積極的に取り組んでいただくとともに、女性たちも与えられたチャンスは臆せずつかんで、自分の人生を豊かにする自己表現の一つとしてキャリアアップを目指して頂きたいと思っております。



## 基調講演 2 「+Diversity 女性の活躍と更なる多様性の尊重」

### 三菱重工業株式会社 取締役会長 大宮 英明

今年6月まで副会長を務めた経団連では、女性の活躍の加速化に向けた企業による自主行動計画の設定・公表を柱とする「女性活躍アクション・プラン」を昨年4月に定めました。当社がグローバル企業として更に成長するためには、多様性を相互に理解・尊重し、その多様性を活かした経営を行うことが重要と認識しており、「2020年までに女性管理職を現行の3倍にする」目標を掲げています。この目標を実現するため、まずは育児休業・勤務などの各種制度を法定を上回る内容に拡充してきました。さらに、制度面の充実に加え、「女性社員数の拡大」、「育児・介護中のキャリア支援」、「女性役職者の計画的育成」にも取り組み、男女が共に多様で柔軟な働き方ができる環境を整える「風土醸成」をおこなってまいります。わが国企業の経営者の大多数は男性です。男性リーダーが自ら女性の活躍を推進することをコミットし、その実現に向け積極的に行動し、発信していくことが非常に重要です。



## パネルディスカッション 「愛知で女性の活躍を進めるには」

- ◆コーディネーター ..... 中京大学経済学部客員教授・梅村学園評議員 **内田 俊宏**
- ◆パネリスト ..... カーレーサー・慶応義塾大学大学院メディアデザイン研究科特任教授 **井原 慶子**  
(五十音順) ..... ブラザー工業株式会社 代表取締役社長 **小池 利和**  
株式会社光機械製作所 代表取締役社長 **西岡 慶子**  
株式会社オークローンマーケティング 代表取締役社長 **ハリリー・A・ヒル**

- 【内田】 日本には働きたくても働けない女性が300万人以上おり、また、女性管理職者数の割合がアメリカは40%以上なのに対して、日本は11%程度。愛知県に目を向けると、男女の賃金の差が全国で4番目に大きいという数字があります。女性の活躍を進めるため、みなさんがおこなってきた取り組みを教えてください。
- 【小池】 当社では、フレックスタイム勤務をはじめ、育児休業や短時間勤務など、ワークライフバランスを支える制度が充実しています。また、制度を利用しやすい風土があり、育児休業からの復帰率はほぼ100%。さらに2014年からは、女性が今以上に活躍できる職場環境を目指し、女性従業員で構成するワーキンググループを立ち上げました。この活動を通じて出された意見からアクションプランを作成し、在宅勤務制度を導入したり、ダイバーシティに関する管理職向けの講演会を開催。こうした企業の取り組みが、女性の活躍を促進させると考えます。
- 【西岡】 工作機械業界の中小企業である当社での、1990年代の女性社員数は全体の10%程度。男性・日系偏重の社風でした。しかし、そうした環境では、新しい発想は生まれません。そこで、私が社長に就任してからは「人にフォーカスする」という経営をおこない、現在までジェンダーフリー、ジェネレーションフリー、グローバルの3Gという人材方針を掲げています。経営塾なども始め、30%程度に増えた女性社員も参加し、会社の要所で活躍しています。また、当社では制度よりも運用に力を要れ、個別の状況にあったサポートを心掛けています。
- 【ヒル】 優秀な人材を確保し、1人ひとりが能力を発揮し会社の成長につなげることが大切。ショップジャパンでは女性だけでなく、同性カップルに配慮した慶弔規定改定をおこなうなど、ダイバーシティを進め、現在の男女比は1対1、7つの国の出身者が働いています。時間による管理ではなく、成果による管理とし、在宅勤務や独自のフレックス制度導入など、働き方を自由にし、オープンブック・マネジメントも導入。結果として、現在の一人当たりの生産性は2006年から倍近くに向上。成果を上げた企業には行政が積極的に公表し支援するなどすれば、より進んでいくのではないのでしょうか。
- 【井原】 自動車開発の技術分野でカーレーサーとして70か国を転戦してきました。体力的にハンデがあるものの、冷静さ、順応力、コミュニケーションなど女性ならではのマルチタスクな能力を生かして、世界ではエンジニアやメカニックの職でも女性が活躍しています。日本の女性の活躍を拒むのは家族や企業、社会にもあります。法制度が整ってきた今、ムーブメントとなる実際のプロジェクトが必要だと思ひ、自動車産業での女性活躍を推進する「ウィメンインモータースポーツプロジェクト」をスタートしました。
- 【内田】 2027年のリニア開通で、名古屋と品川が40分つながると、地域に魅力がなければ「人」や「資本」は首都圏に吸い寄せられてしまいます。それまでに、愛知県の企業と行政は、女性が働くことに魅力を感じる環境をつくらなければいけません。また、女性自身も意識の改革をしていく必要があると感じました。本日はありがとうございました。



内田 俊宏氏



小池 利和氏



小池 利和氏



小池 利和氏



小池 利和氏

今回のサミット開催にあわせ、「女性の活躍促進DVD」を作成し、オープニング映像として上映しました。

